

## 去勢に関する地域差（？）について感じたこと

要田です。トータルハードマネジメントサービス（以下、THMS）5月に入社してから早くも2ヶ月が経ちました。現在は、先輩方の指導のもと診療に参加したり、一人で診療に行かせてもらったりするなど、さまざまな経験を積みさせていただいています。以前勤務していた興部の動物病院とは異なる点に戸惑うこともあります。日々勉強しながら成長していると自負しています。

さて、今回は子牛の去勢について気になったことがあり、それを勉強する一環としてマネジメント情報を書かせていただきました。

以前勤務していた地域では、和牛を飼養している顧客はほとんどいっしょらず、子牛の去勢は農協職員が農場を訪問し、鼻紋採取と同時にゴムリングを装着する方法が一般的であるようでした。時折、失敗したケースや去勢を忘れられた子牛について連絡を受け、獣医師が往診し、観血的に精巣を摘出していました。

一方、THMSの診療地域や肉牛が多い畜産地域では、観血的な去勢が一般的であることを知りました。観血的な方法で精巣を摘出する方が、ゴムリングなどによる非観血的方法と比べて、去勢後の増体量が多くなり、市場でのセリ価格も高くなる傾向にあることが分かっています。このことは、観血的手法では去勢のストレスが術後すぐに解消されるのに対し、ゴムリング法では締め付けによるストレスが長期間持続することが原因であると考えられます。一般的な常識だったのかもしれませんが、私はゴムリング法が当たり前だと思っていたため、目から鱗が落ちたように感じました。

ただし、以前の勤務地でゴムリング法が一般的であったのは、当時往診していた顧客（いずれもかなり高齢な方々でした）だけだったのかもしれませんが。このことについて農協の担当者らとコミュニケーションが十分にとれなかったことは、今となっては少々残念に思います。この経験を踏まえて、今後はさまざまな関係者とのコミュニケーションを密にしつつ、業務に取り組みたいと考えています。

最後に、観血去勢法と非観血去勢法について簡単にまとめました。

	具体的方法	メリット	デメリット
観血去勢法	捻転去勢法 結紮	確実に去勢できる 去勢後の増体が良い	感染のリスク
非観血去勢法	バルザック法(挫滅) ゴムリング法	道具があれば誰でもできる 所要時間が短い	失敗する可能性がある 脱落・吸収に時間がかかる (去勢後の増体が悪い)

今後とも、農場の皆さまや、諸先輩方のご指導ご鞭撻を仰ぎながら精進してまいりたいと思います。新しい環境に不慣れな所もあり、いたらない点が多々あるかと思いますが、その都度ご指摘いただきたく存じます。どうぞよろしくお願いたします。

要田